

■■ INDEX ■■

■■ 2022年11月:特集レポートダイジェスト ■■

特集①) 2022年 首都圏新築マンション市場速報 P.1～16

- 【1】 2022年首都圏新築マンション市場について
【トピックス】
- ・価格上昇マーケットでの動き:検討エリアの拡がり
 - ・北関東エリアのマーケット動向
- 【2】 新築マンション周辺に分譲戸建動向
～直近の新築戸建マーケットについて～
- 【まとめ】

特集②) 2023年以降の首都圏『持家購入』動向を考える P.1～14

- 【1】 『持家購入意向』の推移・家族構成別 / 25-49歳の借家層
- 【2】 『持家がよい理由』について:家族構成別
- ◇ 持家を購入して、良かったと感じること
 - ◇ 首都圏:賃貸マンションの平均賃料の推移
 - ◇ ファミリー向け賃貸マンションの仕様・設備
- 【3】-① 住まいの選択志向:『マンション』or『戸建』の希望
『マンション』を希望する理由
- 【3】-② 住まいの選択志向:『新築マンション』or『中古マンション』
- ◇ 首都圏:新築・中古マンション価格動向
- 【まとめ】
- ◇ 資料 『戸建』を希望する理由

～次号(2022年12月)の予定～

◆特集レポート

- ・2023年 首都圏新築マンション市場の見通し
- ・仮) 2022年のお客様特性からみた、2023年のお客様動向予測

特集①) 2022年 首都圏新築マンション市場速報

2022年の首都圏新築マンションの年間供給戸数は約33,700戸程度となる見込み※。1棟あたりの供給戸数は、マーケットが好調だった2021年水準を上回り、特に新規スタート物件が順調に進捗。価格上昇が、更に一段進む中、新規スタート物件が、マーケットを牽引する結果となった。

※長谷エアーストキャッチベース

本レポートでは、2022年の新築マンション市場について、「供給戸数や供給傾向」、トピックスとして「価格上昇マーケットでの動き/郊外へ検討エリアを広げる動き」「北関東エリアの動向」等、また周辺マーケットとして「分譲戸建動向/新築戸建」等についてまとめました。

特集②)2023年以降の首都圏『持家購入』動向を考える
長谷エアースト:2022年住宅需要調査(首都圏)より

2022年の首都圏新築マンション市場の供給が順調に進む中、本レポートでは、長谷エアースト:2022年住宅需要調査より、住宅購入主力となる25-49歳借家層の『今後の持家購入意向』や『住まいの選択志向』(①マンションか戸建、②新築か中古)の意識を家族構成別に分析。

新築マンションの価格上昇・物価高が続く中においても、1次取得層の『持家×マンション』志向が底堅く推移している背景について、家族構成別の「持家・マンションの評価ポイント」、首都圏:「賃料の推移(面積帯別)」「賃貸の仕様設備」、「新築・中古マンションの価格動向」等の各種データから確認。2023年以降の『持家購入』動向について考察しました。